

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年8月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地	鹿児島市西陵6丁目21番21号 (電話) 099-283-0991
自己評価作成日	平成30年7月20日 [金]

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.shunpukai.com
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま
所在地	鹿児島市 新屋敷町 16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年8月4日 [土]

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西陵団地の中心部に位置し、周囲にはスーパーや銀行、学校、郵便局、医療機関などがあり、とても利便性の高い所に建っている。入口には門扉もなく、玄関には鍵もかけてなく、入居者は自由に出入りができている。道路を挟み同系列のグループホームが2事業所、老健施設も同敷地内にある。グループホームで行事後、隣接する介護保険施設へ慰問に行き演芸活動を披露したりして、交流をしています。食事、食べたいものを入居者へお聞きして、外食、出前、ランチ体験をしたりして、在宅に使いサービスを提供する様に心がけています。テレビ体操や生活レクリエーションや、塗り絵等は毎日の日課となっています。入居者に明るく接することでもいつも、笑顔が絶えないホームを目指しています。法人内の協力医療機関や、ご家族とも密に連携をとり、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、大型団地の中心部にありながら、近隣に溶け込んでおり、運営推進会議への出席や避難の協力体制が構築されている。朝晩は、登下校の小・中学生などと挨拶を交わしたり、文化祭を見学に行くなどして地域と交流している。
- 主治医は、利用者、家族が希望する医療機関となっているが、外来受診はドライブを兼ねてよい気分転換になっている。薬剤師との医療連携が図られ、緊急時や重度化した場合など、オンコール体制があり母体医療機関との連携が構築されている。看取りの経験はないが、「重度化や看取りに関する指針」があり、段階に応じて利用者や家族に事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療や介護の方向性を検討しつつ医療機関や介護施設などを紹介するなど取り組んでいる。
- 法人の管理栄養士による栄養指導を受けているが、職員が1週間ごとに献立を作成し、食事形態を工夫して美味しく食べやすくして食事が摂れるよう努めている。地域から食材の差し入れがあり、能力に応じた手伝いをいただきながら、手作りのおやつや漬物、保存食などがあり、ソーメン流しに出かけたり、出前を取ったり、クリスマスは、家族とバイキング料理を楽しむなど食の自立支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを踏まえた事業所の理念を作っており毎朝、申し送り後に、実践につながるように理念を唱和している。	職員は、朝礼で理念を唱和し、日々の暮らしの中では利用者に寄り添うケアを大切に支援している。理念は、職員に浸透しており、新人教育も徹底している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の玄関には、施錠もしないで、門扉もなく常にだれでも出入りができるようにしています。地域の総会や夏祭りや小・中学校の文化祭にも参加しています。	毎朝、ホーム周辺の清掃活動、登下校の子ども達との触れ合い、近隣の公園やスーパーに買い物に行ったり、総会に参加するなどして地域と交流している。また、地域行事への参加やボランティアの受け入れなども積極的に実施している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2か月に1回必ず開催している運営推進会議には入居者18名も出席し、地域の町内会の会長さんや、民生委員が交替で出席し、実際に面談して認知症の理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、これから認知症が増加することを踏まえて認知症の初期症状などの「ミニ研修」を議題に挙げて勉強会を取り入れたりしている。	管理者は、西陵地区の町作り活動に参画し、事業所が地域にできる地域貢献を検討している。家族も協力的で会議に参加があり、会議メンバーも入れ替えしたり、ミニ勉強会を取り入れるなどして情報提供し、活発な意見交換があり出された意見やアドバイスなどを運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	当事業所は生活保護受給者の受け入れ施設である。紙おむつの現物支給の事や、生活保護受給者の入居に関しても直接市の担当者と連携をとり協力をしてもらっている。	管理者は、市担当者や福祉事務所職員と電話や面談などで事業所の実情や介護計画の説明をおこない、助言を得ながら相互の協力関係を築いている。年1回、介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	代表者及び全職員が「指定地域密着型介護サービス指定基準における禁止の対象となる行為を正しく理解しており身体拘束をしないケアをしている。	職員は、玄関チャイムや人感センサーなどに頼ることなく、利用者の行動パターンをタイムスケジュール表にて把握し、行動パターンをデータ化するなど拘束しないケアに取り組んでいる。介護保険制度改正による、「身体拘束等の適正化」もあり、内部研修会などで職員全員に周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について「事業所ミーティング」で研修をしている。スタッフもお互いに見過ごすことがないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度・権利擁護については事業所ミーティングで研修をして理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居について電話での問い合わせや、質問がよくある。電話での質問は相手が見えないので誤解や間違いがないように、実際に事業所へおいでいただき詳しく説明する様に声掛けしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の意見や、相談はいつでも気軽にできるように。各自の居室へ「交換ノート」を置き、意見・要望を表せるようにしている。	居室に、「はるかぜとご家族の気持ちノート」を設置し、意見交換しているが、利用者への面会の機会を活用し、なるべく直接意見を聞くよう努めている。管理者は、2階ユニットの家族にも積極的に面談し広く意見を聴取、職員と情報共有して出された意見をサービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所のミーティングのプログラムにも運営に関する職員の意見や提案を聞くために、最後にその他の欄を設けている。意見は記録し、月1回の管理者会議時に質問したり、報告しています。	職員が希望する外部研修会へ参加がしやすいようシフト調整したり、所定の休憩時間を取りリフレッシュして職務に取り組める就業環境があり、個人面談やミーティングなどで出された意見などは、管理者会議で話し合わせサービスの質の向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務内容は月1回のミーティング時にスタッフと検討し給与・労働時間等の就業環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得を目指している職員には優先的に休めるようにシフトを組み譲り合ったり、協力ができそうなスタッフ間の関係性作りをしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>母体の病院や、同系列の特養の研修にも参加させていただきグループワークを一緒にしたりする機会があり事業所間の交流ができています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学・入居の希望があった時点で現在利用しておられるところと連携を取り、面談や情報を提供してもらってご家族とも納得いくまで説明し、話を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よく利用料や、空き状況の問い合わせがあります。電話での質問はできるだけ避けるようにして、実際にホームを見て戴き、サービスの利用を開始されるように家族との信頼関係作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在受けておられるサービスをお聞きし、ここでのサービスを利用することが、適切か、利用者・ご家族が選択できるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者のプライドに配慮してできない事だけを支援する自立支援を基本にして、生活を共にしていく姿勢で接しています。人生の先輩の気持ちをもって接する様にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>認知症介護は本人・家族・スタッフの3本柱という考えのもと、ケアの内容が変更になった時もその内容をスタッフ間で話し合い、家族に伝えて納得していただくようにしています。</p>			
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者の自宅の近隣の人が面会に来られる場合も居室へ案内しお茶・お菓子を出して、ゆっくり話ができる環境を提供する様にしています。</p>	<p>入居前からの知人や友人の方の面会もあり、理美容院の方とも馴染みの関係になっている。家族と墓参りに行かれる方もおられる。職員は、面会時には居室でゆっくりと歓談していただけるよう配慮している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ホールで過ごす入居者が多く相性や性格を考慮して3人掛けのソファを3脚用意して孤立がないように支援に努めています。</p>			
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了したり、他のホームへ移動、入院したりが発生したら写真入りのメッセージ色紙をスタッフ全員で作成して、生花をもってお見舞いに行ったりして、本人やご家族との関係作りに努めています。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いや、それまでの生活を把握して、希望・意向はわからないことはご家族に聞いたりして本人本位に検討しています。	職員全員でアセスメントを実施しており、家族に確認しながら職員間で本人の思いを共有している。日々の暮らしの中で、何気ない言葉や行動を分析し、本人の思いに触れ意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを知ることはもちろん、毎日の会話の中にも把握したことを話題にして楽しく生活ができるように支援しています。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の睡眠、身体状況を夜勤者へ、同じく夜勤者は夜間の様子を日勤者へ申し送りを徹底しています。心身両面を、総合的に判断して職員はケアにあたっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、ご本人やご家族の意見を中心に、職員とカンファレンスを行い作成をしています。サービス開始前にご家族に説明・同意サインをもらった上で行っています。必要に応じて変更した場合もプランの変更をしています。	職員は、本人の思いに寄り添うケアを実践しており、自立支援のため生活リハビリに取り組んでいる。また、本人の役割や生きがいにも焦点を当て本人らしい生活の実現に向けて個別プログラムへの取り組みや、本人本位の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を細かく観察し、食事・排泄・歩行などや心身状態や、本人の発する言葉まで記録して援助し、職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1日の流れは一応決めてはいますがその日の状況に合わせて、外出したりレクリエーションをしたり柔軟なサービスをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安全に安心して地域で暮らすことができるように、地域の行事も伝えるようにしています。運営推進会議にも町内会会長・民生委員も参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や、ご家族が希望されているかかりつけ医がいますので毎日バイタルチェックを朝10時に行い月1階公用車で受診しています。緊急時は医師にすぐつながるホットライン（携帯）が設置されています。	本人、家族が希望する主治医であるが、母体医療機関ともオンコール体制が図られており、薬剤師などの医療連携が取られている。他科受診時は、家族の同意を得て同行支援したり、文書にて情報提供するなど連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員には看護師はいないので常日頃から、入居者の顔色。バイタル。様子の観察をして異常の早期発見に注意する様にしている。居宅療養管理指導の薬剤師とは連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は入院先にサマリーをすぐ送り、管理者・職員はお見舞いに行き、経過や、今後の事をS・Wとも連携・ご家族からの相談もお受けしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、終末期に向けての話は、それが必要になった時点で、主治医に相談し、ご家族に伝えるようにしています。ターミナルについては事業所として今後どのようにしていくか現在検討中です。	重度化や看取りの指針は定めているが、これまでに看取りの経験はなく体制もないため今後の方向性を検討したいとしている。管理者は、早い段階から本人や家族の意向を踏まえ、十分に説明した上で医療や介護の意志確認を文書で取り交わしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は同系列の理事長と直通の携帯【ホットライン】で、繋がっています。入居者の状況やバイタルを伝えて指示をすぐもらえるようになっていきます。月1回のミーティングで研修もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間・昼間想定と地震避難訓練の年3回実施しています。近隣の施設にも知らせて応援をもらう体制で実施しています。</p>	<p>昼夜想定避難訓練、地震時の対応など年3回実施している。地域の協力体制があるが、夜間帯などは、近隣法人の協力体制もある。緊急時持ち出し袋、頭巾や備蓄を備え、防災点検も定期的実施している。管理者は、地域の防災訓練に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体である同系列病院の実施する研修にも参加し、各自のスキルアップに努めている。言葉つかいなどにも気を配り人格を尊重し、プライドに傷がつかないようにことばかけをしています。	内部研修を実施しているが、不適切な言葉使いをしていないか、態度はしていないかなど職員同士チェックするようにしている。言葉使いは丁寧で、節度ある対応が印象的である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けは常に「いかがですか?」とか「どうしますか?」とか選択肢を与えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性を大切にし、本人が可能なレクリエーションに参加してもらっています。本人の意見を最優先にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服やパジャマは、更衣時に本人の好みで着ることができるよう支援しています。見えるようにハンガーにかけたりタンスの中を整理し工夫しています。2か月に1回訪問カットも利用しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は誤嚥のある入居者も含めて1人1人異なるが好みも聞き献立を立てている。職員も同じテーブルで、食事をしてコミュニケーションをとっている。	職員は、食事形態を工夫しながら献立を作成し、年1回程度は法人の管理栄養士から助言を受けている。外食や出前、手作りのおやつ、誕生日のリクエストメニューやケーキ、行事食を家族と一緒に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録し、口頭で申し送っている。飲水拒否がある場合は、それに代わる飲み物を提供し栄養バランスや、カロリーについては同系列の病院の管理栄養士に評価を貰っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と寝る前は職員が自室の洗面所へ案内し、個別に口腔ケアを一緒に行っている。義歯の劣化を防ぐため週1回はポリデント消毒し、それ以外は磨き洗いをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を中心にしている。失禁後は温清拭をして入居前リハパン使用の入居者も現在はボクサーパンツを使用して経費節減をしています。	排泄のリズムを整え、ポータブルトイレを併用したり、人感センサーを活用して、場所が解るようその都度誘導をしてなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。また、手すりを点検するなど排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は繊維の多い献立作りに心がけ便秘の予防や下剤の予薬や調整、排便の記録もとっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日午前中が入浴日と決めてはいるが、希望する入居者は入浴されている。ここは温泉であり楽しく入浴されています。	週3回程度の入浴と同時に本人の希望や必要性に応じて入浴支援をおこなっている。手すりが設置された広い浴槽で個別に温泉浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を多くし、軽体操やテレビ体操、生活レクリエーションも多く取り入れ夜間の睡眠を確保できるように支援しています。体調や表情も考慮し、仮眠も短時間取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方箋や薬情もファイルに綴じていつでも見れるようにして、与薬は全介助し、飲み込まれたか？の確認迄しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のできる力を職員は把握していて、できるレクリエーションはお願いしています。終わったら必ず評価してお礼を言うようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	大型バスで花見とか、ランチ体験とか行事を取り入れて職員と一緒に出かけられる様に支援をしています。	利用者が、メダカの餌やりを日課にされていたり、近隣を散策したり、スーパーにショッピングがてら外出するなどしている。外出は、レクリエーション計画にて計画的に実施もあり、地域の夏祭りや運動会の見学、外食などに出かけて季節の移り変わりを肌で感じたり、気分転換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の心配や、大切さを理解している入居者には家族からお金をちゃんと預かり金庫に保管していることを伝えています。希望されれば買い物支援もするようにしています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からの電話はいつでも繋げるように、各階に子機を設置しています。毎年元旦には年賀状を家族あてに出すように支援しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同の空間〔台所・居間〕は、広く常に食器を洗う音、ご飯や、みそ汁の炊ける匂い、昔なじみの音楽や生活感が体で感じられる家庭的な雰囲気のホームである。</p>	<p>玄関には、季節の生花が活けてあり、椅子やソファがカフェ風に設えてあり活用されている。共有スペースには、長めのソファが設置してあり、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮されている。対面キッチンであり、利用者の様子を見ながら会話したり、調理する音や匂いが五感を刺激する家庭的な雰囲気の空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間には、3～4人掛けのソファが3脚、1人がけの椅子が数脚置いてあり、自由に気の合った入居者同士が過ごせるような工夫をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使っていた家具や使い慣れたもの、好みのものを持ってきてもらい、生活環境が大きく変化がないようにして、居心地よく暮らせるように支援しています。</p>	<p>家族写真、ぬいぐるみ、寝具など使い慣れた物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。排泄の自立支援のため、ポータブルトイレを置いている方もいるが、昼間は布を掛けるなどプライバシーに配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>介助する中でできることとできない事を見出し、安全に安心して生活ができるように支援しています。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
		○	1 ほぼ全ての利用者が

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
			1 ほぼ全ての利用者が
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
			1 ほぼ全ての利用者が
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
			1 ほぼ全ての家族と
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
			1 ほぼ毎日のように
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
			1 ほぼ全ての職員が

67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない